

社会資本総合整備計画（市街地整備）

平成 30 年 5 月 28 日

計画の名称	尼崎市中心部地域の活性化		
計画の期間	平成23年度 ～ 平成27年度（5年間）	交付対象	尼崎市
計画の目標			

尼崎市中心部地域及び周辺における「生活幹線道路」の改築・修繕を行い、道路ネットワークを強化するとともに、歩行者空間のバリアフリー化などを推進し、道路環境の改善を図ることにより、豊かで安全な都心居住機能、商業・業務機能並びに文化・交流機能を高め、地域の活性化を図る。

計画の成果目標（定量的指標）	① 尼崎市中心部地域における、低未利用地（工場跡地、鉄道施設跡地等）の削減 ② 尼崎市中心部地域における、「生活幹線道路」の安全歩行空間の増加		
----------------	--	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考
	当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H27末)	
① 尼崎市中心部地域における、低未利用地面積を算出。 ※低未利用地面積とは、工場跡地や鉄道施設跡地など土地利用が図られていない土地	10.1 ha	7.8 ha	5.7 ha	
② 尼崎市中心部地域における、「生活幹線道路」の安全歩行空間の整備率 安全歩行空間整備率 = 安全歩行空間整備延長 (km) / 整備が必要な路線の延長 (km) ※安全歩行空間とは、幅員 2 m 以上で車道と分離しバリアフリー化が図られた歩道	52%	75%	90%	

全体事業費	合計 (A+B+C)	788百万円	A	321百万円	B	467百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%
-------	---------------	--------	---	--------	---	--------	---	------	---------------------------	------

事後評価

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
ニ崎市中心部地域内を調査	H29年度
	公表の方法
	ニ崎市ホームページに掲載

交付対象事業

A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26	H27		
1-A1-1	都市総	一般	尼崎市	直接	尼崎市	尼崎市中心部地域都市再生総合整備事業	尼崎駅前3号線 L=0.2km 長洲久々知線(高内北) L=0.1m	尼崎市						321	
合計												321			

B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26	H27		
1-B1-1	道路	一般	尼崎市	直接	尼崎市	尼崎駅前1号線	現道拡幅 L=0.4km	尼崎市						9	
1-B1-2	道路	一般	尼崎市	直接	尼崎市	長洲久々知線（高内南）	現道拡幅 L=0.1km	尼崎市						67	
1-B1-3	道路	一般	尼崎市	直接	尼崎市	常光寺難波線外5線	道路修繕 L=6.0km	尼崎市						391	
合計												467			

番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考
1-B1-1	都市総(1-A1-1)と一体的に実施することにより、尼崎市中心部地域における道路環境の改善を図り、地域の活性化を図る。														
1-B1-2	都市総(1-A1-1)と一体的に実施することにより、尼崎市中心部地域における道路環境の改善を図り、地域の活性化を図る。														
1-B1-3	都市総(1-A1-1)と一体的に実施することにより、尼崎市中心部地域における道路環境の改善を図り、地域の活性化を図る。														

C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
										H23	H24	H25	H26	H27		
															0	
合計												0				

番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する  
交付対象事業の効果の発現状況

- ・ 中心部地域へのアクセスが向上したことにより、周辺の低未利用地において集合住宅、病院、工場等が建つようになり、賑わいのある空間を作り出すことができた。
- ・ 歩車分離と歩道のバリアフリー化を図るとともに、自転車専用道の整備により自転車と歩行者も分離したことで、歩行者空間の安全性が向上した。

II 定量的指標の達成状況	指標① 尼崎市中心部地域における、低未利用地面積を算出。	最終目標値	5.7ha以下	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	0.8ha		
	指標② 尼崎市中心部地域における、「生活幹線道路」の安全歩行空間の整備率	最終目標値	90%	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	91%		
		最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値			

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況  
(必要に応じて記述)

3. 特記事項 (今後の方針等)

当該整備計画の実施期間はH27年度までであったが、尼崎市中心部地域において、別の整備計画に基づき実施していた関連事業 (都) 長洲久々知線 (鉄道立体交差事業) の完了を待って、H29年度に事後評価を行った。

(参考図面) 市街地整備

